みずほマーケット・トピック（2017 年 3 月 3 日）

週末版

内容　1．為替相場の動向　　2．来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3．本日のトピック」はお休みとさせていただきます。

1．為替相場の動向（関連レポート：「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」）

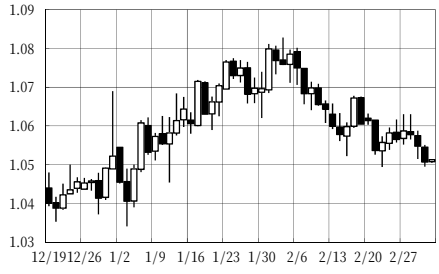
- 今週のドル/円相場は上昇する展開。週初 2 月 27 日、112 円台前半でオープンしたドル/円相場は、米 1 月耐久財受注の市場予想を上回る結果を好感すると 112 円台半ばまで上昇。その後に、発表された米 1 月製造業受注や米 1 月中古住宅販売仮契約の悪化を受けて 112 円割れまで反落。しかし、カプラン・ダラス連銀総裁の「早めの利上げが理想的」との発言を受けて 112 円台後半まで反発した。28 日は、米 10～12 月期 GDP（2 次速報）や米 1 月卸売在庫の市場予想を下回る結果を嫌気すると、原油価格の下落も相俟って、ドル/円は一時週安値となる 111.69 円まで値を下げた。その後は FRB 高官によるタカ派色の強い発言が相次ぐ中、米長期金利の上昇とともに、ドル/円は 112 円台後半まで上昇した。3 月 1 日にかけてもドル買い地合いが継続する中、トランプ米大統領の議会演説が波乱なく終わった安心感もあり、ドル/円は 113 円台後半まで続伸。その後、米 2 月 ISM 製造業景気指数の市場予想を上回る結果にドル買いが強まると、米長期金利上昇も相俟って、ドル/円は一時 114 円台に乗せた。翌 2 日は、新規失業保険申請件数が 44 年ぶりの低水準となったことやパウエル FRB 理事が「3 月利上げの根拠がそろってきた」と発言したことが材料視されると、ドル/円は一時週高値となる 114.59 円まで上昇。本日にかけても、週末にイエレン FRB 議長などの講演を控え、ドル/円は 114 円台前半で堅調推移となっている。
- 今週のユーロ相場は下落する展開。週初 2 月 27 日、1.05 台半ばでオープンしたユーロ/ドルは、米 1 月製造業受注や米 1 月中古住宅販売仮契約の悪化を受けてドル売りが強まると、一時週高値となる 1.0631 まで上昇したが、カプラン・ダラス連銀総裁の発言を受けてドルが買い戻されると 1.05 台後半まで下落した。28 日は、米 10～12 月期 GDP や米 1 月卸売在庫の市場予想を下回る結果を嫌気したドル売りに、ユーロ/ドルは週高値近辺まで再び上昇するも、FRB 高官によるタカ派色の強い発言が相次ぐ中、米長期金利上昇に伴いドル買いが強まり、ユーロ/ドルは 1.05 台後半に再び押し戻された。3 月 1 日は、トランプ大統領の議会演説や米 2 月 ISM 製造業景気指数の市場予想を上回る結果を受けたドル買いに、ユーロ/ドルは 1.05 台前半まで下落。翌 2 日には、米長期金利の上昇を背景にドル買いが強まると、ユーロ/ドルは一時週安値となる 1.0495 まで続落した。本日のユーロ/ドルも、1.05 台前半で上値重く推移している。

今週のおもな金融市場動向（出所：ブルームバーグ、みずほ銀行）

		前週末	今週			
		2/24(Fri)	2/27(Mon)	2/28(Tue)	3/1(Wed)	3/2(Thu)
ドル/円	東京9:00	112.69	112.20	112.75	113.10	114.12
	High	112.96	112.84	112.90	114.05	114.59
	Low	111.93	111.92	111.69	112.73	113.69
	NY 17:00	111.96	112.74	112.78	113.73	114.40
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0585	1.0553	1.0583	1.0569	1.0536
	High	1.0618	1.0631	1.0630	1.0590	1.0552
	Low	1.0557	1.0552	1.0565	1.0514	1.0495
	NY 17:00	1.0565	1.0587	1.0578	1.0548	1.0507
ユーロ/円	東京9:00	119.25	118.40	119.32	119.53	120.22
	High	119.50	119.45	119.38	120.22	120.49
	Low	118.25	118.26	118.68	119.28	119.96
	NY 17:00	118.45	119.32	119.28	119.94	120.18
日経平均株価		19,283.54	19,107.47	19,118.99	19,393.54	19,564.80
TOPIX		1,550.14	1,534.00	1,535.32	1,553.09	1,564.69
NYダウ工業株30種平均		20,821.76	20,837.44	20,812.24	21,115.55	21,002.97
NASDAQ		5,845.31	5,861.90	5,825.44	5,904.03	5,861.22
日本10年債		0.07%	0.05%	0.06%	0.07%	0.07%
米国10年債		2.31%	2.37%	2.39%	2.45%	2.48%
原油価格（WTI）		53.99	54.05	54.01	53.83	52.61
金（NY）		1,258.30	1,258.80	1,253.90	1,250.00	1,232.90

ドル/円相場の動向

ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

・欧州では、9 日（木）に ECB 理事会が開催され、現状の金融政策が維持されると見込む。直近はドイツにおいて 2 月消費者物価指数（HICP）が前年比+2.2%と 2012 年 8 月以来の高水準になるなど、ユーロ圏の消費者物価指数（HICP）は加速している。また、マネーサプライ（M3）、民間向け貸出などの重要な計数は全て好調となっており、追加緩和の必要性は低くいと言えよう。また、3 月 15 日のオランダ総選挙を皮切りに EU は選挙の季節に入るほか、4 月からは拡大資産購入プログラム（APP）に基づく月次購入額が 800 億ユーロから 600 億ユーロに減額される。経済指標が良好となる中、ECB は政治情勢及び APP 修正の効果を見極めるため、今回の理事会では現状の金融政策を維持するだろう。なお、堅調な HICP を受けて量的緩和の縮小（テーパリング）を予想する向きがあるものの、前回理事会（1月 19 日）の議事要旨で示されているように、ECB は物価動向に対して慎重な見方を維持しており、「量」の縮小を筆頭とする引き締め措置を行う可能性は当面低いと言えよう。そのほか、6 日（月）にユーロ圏 3 月センティックス投資家信頼感指数、7 日（火）にユーロ圏 10～12 月 GDP（3 次速報値）が発表される。政治日程としては、9 日（木）～10 日（金）に EU 首脳会議の開催が予定されている。

・米国では、10 日（金）に 2 月雇用統計の発表が予定されている。雇用統計の調査週にあたる 2 月第 3 週（12 日を含む週）の新規失業保険申請数は、趨勢を示す 4 週間移動平均で 24.1 万人と 1 月（24.7 万人）から減少した。しかしながら、例年よりも温暖な気候を受けて 1 月非農業部門雇用者数は上振れしており、2 月は前月比+17.5 万人と天候要因の剥落に伴い 1 月（同+22.7 万人）から減少すると市場では見込まれている。仮に結果が予想対比で上振れたとしても、季節要因の影響も受けているため、利上げの決定打となる可能性は低いだろう。このほか、6 日（月）に 1 月耐久財受注（確報値）、7 日（火）に 1 月貿易収支、8 日（水）に 2 月 ADP 雇用統計の発表が予定されている。

・本邦では、8 日（水）に 1 月国際収支、10～12 月期 GDP（2 次速報値）、9 日（木）に 1 月毎月勤労統計、2 月工作機械受注（速報値）が発表される。

	本　邦	海　外
3 月 3 日（金）	―――――――――――	・米 2 月 ISM 非製造業景気指数
6 日（月）	―――――――――――	・米 1 月製造業新規受注 ・米 1 月耐久財受注
7 日（火）	―――――――――――	・米 1 月貿易収支　　・米 1 月消費者信用残高 ・ユーロ圏 10～12 月期 GDP(確報) ・独 1 月製造業受注
8 日（水）	・1 月国際収支　・10～12 月期 GDP(確報) ・2 月貸出・預金動向 ・1 月景気動向指数（速報） ・2 月景気ウォッチャー調査 ・2 月企業倒産件数	・米 2 月 ADP 雇用統計 ・米 10～12 月期労働生産性（確報） ・米 1 月卸売在庫　　・米 1 月卸売売上高 ・米 1 月鉱工業生産
9 日（木）	・2 月マネーストック　・1 月毎月勤労統計	・ユーロ圏 ECB 理事会（フランクフルト）
10 日（金）	・2 月国内企業物価 ・1～3 月期法人企業景気予測調査	・米 2 月雇用統計 ・米 2 月財政収支 ・米 1 月貿易収支

【当面の主要行事日程（2017 年 3 月～）】

米 FOMC(3 月 14～15 日、5 月 2～3 日、6 月 13～14 日)
オランダ総選挙（3 月 15 日）
日銀金融政策決定会合（3 月 15～16 日、4 月 26～27 日、6 月 15～16 日）
G20 財務大臣・中央銀行総裁会議(3 月 17～18 日、ドイツ・バーデン=バーデン)
ユーロ圏財務相会合・EU 経済財務相理事会（3 月 20～21 日）
ECB 理事会（4 月 27 日、6 月 8 日、7 月 20 日）

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌　大輔（TEL：03-3242-7065）
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー（2017年3月）

月	火	水	木	金	週末
		1 日本　法人企業統計（10～12月期） 日本　自動車販売台数（2月） 米国　個人所得・消費（1月） 米国　PCEコアデフレーター（1月） 米国　ISM製造業景気指数（2月） 米国　建設支出（1月） 米国　ベージュブック	**2** 日本　マネタリーベース（2月） ユーロ圏　失業率（1月）	**3** 日本　全国消費者物価（1月） 日本　東京都消費者物価（2月） 日本　労働力調査（1月） 日本　家計調査（1月） 米国　ISM非製造業景気指数（2月）	
6 米国　製造業新規受注（1月） 米国　耐久財受注（確報、1月）	**7** 米国　貿易収支（1月） 米国　消費者信用残高（1月） ユーロ圏　GDP(確報、10～12月期) ドイツ　製造業受注（1月）	**8** 日本　国際収支（1月） 日本　GDP(確報、10～12月期) 日本　貸出・預金動向（2月） 日本　景気動向指数（速報、1月） 日本　景気ウォッチャー調査（2月） 日本　企業倒産件数（2月） 米国　ADP雇用統計（2月） 米国　労働生産性（確報、10～12月期） 米国　卸売在庫（確報、1月） 米国　卸売売上高（1月） ドイツ　鉱工業生産（1月）	**9** 日本　マネーストック（2月） 日本　毎月勤労統計（1月） ユーロ圏　ECB理事会（フランクフルト）	**10** 日本　国内企業物価（2月） 日本　法人企業景気予測調査（1～3月期） 米国　雇用統計（2月） 米国　財政収支（2月） ドイツ　貿易収支（1月）	
13 日本　機械受注（1月） 日本　第三次産業活動指数（1月） 米国　労働市場情勢指数（2月）	**14** 米国　FOMC(～15日) 米国　生産者物価（2月） ユーロ圏　鉱工業生産（1月） ドイツ　ZEW景況指数（3月）	**15** 日本　日銀金融政策決定会合（～16日） 日本　鉱工業生産（確報、1月） 米国　ニューヨーク連銀製造業景気指数（3月） 米国　消費者物価（2月） 米国　小売売上高（2月） 米国　企業在庫（1月） 米国　TICレポート（対内対外証券投資、1月） オランダ　オランダ総選挙	**16** 米国　住宅着工（2月） 米国　フィラデルフィア連銀製造業景気指数（3月） ユーロ圏　消費者物価（確報、2月）	**17** 米国　鉱工業生産（2月） 米国　ミシガン大学消費者マインド（速報、3月） 米国　景気先行指数（2月） ドイツ・バーデン=バーデン 20か国財務相・中央銀行総裁会議（～18日） ユーロ圏　貿易収支（1月）	
20 日本　春分の日 ユーロ圏　財務相会合（ブリュッセル） ユーロ圏　*経常収支（1月）	**21** 米国　経常収支（10～12月期） ユーロ圏　EU経済・財務相理事会（ブリュッセル）	**22** 日本　金融政策決定会合議事要旨（1月30～31日開催分） 日本　貿易収支（2月） 米国　中古住宅販売（2月）	**23** 米国　新築住宅販売（2月）	**24** 日本　景気動向指数（確報、1月） 米国　耐久財受注（速報、2月） ユーロ圏　製造業PMI、サービス業PMI（速報、3月）	
27 日本　企業向けサービス価格（2月） 日本　日銀金融政策決定会合による主な意見（3月15～16日開催分） ドイツ　IFO企業景況指数（3月）	**28** 米国　消費者信頼感指数（3月） 米国　卸売在庫（速報、2月） 米国　S&P/コアロジックケース・シラー住宅価格（1月）	**29** 日本　商業販売統計（2月）	**30** 米国　GDP(3次速報、10～12月期)	**31** 日本　全国消費者物価（2月） 日本　東京都区部消費者物価（3月） 日本　労働力調査（2月） 日本　家計調査（2月） 日本　鉱工業生産（速報、2月） 日本　新設住宅着工（2月） 米国　個人所得・消費（2月） 米国　PCEコアデフレーター（2月） 米国　ミシガン大学消費者マインド（確報、3月） 米国　シカゴ購買部協会景気指数（3月）	

（注）*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
（資料）ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー（2017年4月）

月	火	水	木	金	週末
					1
3 日本　短観（3月調査） 日本　自動車販売台数（3月） 米国　ISM製造業景気指数（3月） 米国　建設支出（2月） ユーロ圏　失業率（2月）	4 日本　マネタリーベース（3月） 米国　貿易収支（2月） 米国　製造業新規受注（2月）	5 米国　ADP雇用統計（3月） 米国　ISM非製造業景気指数（3月） 米国　FOMC議事要旨（3月14～15日開催分）	6 ドイツ　製造業受注（2月）	7 日本　毎月勤労統計（2月） 日本　景気動向指数（速報、2月） 日本　*企業倒産件数（3月） 米国　雇用統計（3月） 米国　卸売在庫（確報、2月） 米国　卸売売上高（2月） 米国　消費者信用残高（2月） ドイツ　鉱工業生産（2月） ドイツ　貿易収支(2月)	
10 日本　国際収支（2月） 日本　景気ウォッチャー調査（3月） 米国　労働市場情勢指数（3月）	11 ユーロ圏　鉱工業生産（2月） ドイツ　ZEW景況指数（4月）	12 日本　機会受注（2月） 日本　貸出・預金動向（3月） 米国　財政収支（3月）	13 日本　マネーストック（3月） 日本　国内企業物価（3月） 米国　生産者物価（3月） 米国　ミシガン大学消費者マインド（速報、4月）	14 日本　鉱工業生産（確報、2月） 米国　消費者物価（3月） 米国　小売売上高（3月） 米国　企業在庫（2月）	
17 米国　ニューヨーク連銀製造業景気指数（4月）	18 米国　TICレポート(対内対外証券投資、2月) 米国　住宅着工（3月） 米国　鉱工業生産（3月）	19 米国　ベージュブック ユーロ圏　消費者物価（確報、3月） ユーロ圏　貿易収支（3月）	20 日本　貿易収支（3月） 米国　フィラデルフィア連銀製造業景気指数（4月） 米国　景気先行指数（3月）	21 日本　第三次産業活動指数（2月） 米国　中古住宅販売（3月） ワシントン　IMF・世界銀行春季総会（～23日） ユーロ圏　製造業PMI、サービス業PMI ユーロ圏　経常収支（2月）	23 ユーロ圏　フランス大統領選挙（第一回）
24 日本　景気動向指数（確報、2月） ドイツ　IFO企業景況指数（4月）	25 日本　企業向けサービス価格（3月） 米国　S&P/コアロジックケースシラー住宅価格（2月） 米国　新築住宅販売（3月） 米国　消費者信頼感指数（4月）	26 日本　日銀金融政策決定会合（～27日）	27 日本　金融政策決定会合・展望（基本的見解） 米国　耐久財受注（速報、3月） ユーロ圏　ECB理事会（フランクフルト）	28 日本　家計調査（3月） 日本　労働力調査（3月） 日本　全国消費者物価（3月） 日本　東京都区部消費者物価（4月） 日本　鉱工業生産（速報、3月） 日本　商業販売統計（3月） 日本　新設住宅着工（3月） 米国　雇用コスト（1～3月期） 米国　GDP(1次速報、1～3月期) 米国　シカゴ購買部協会景気指数（4月） 米国　ミシガン大学消費者マインド（確報、4月）	29

（注）*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
（資料）ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html　(Archives)　http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2017年3月2日	本邦輸出企業の採算レートやそこから推測される展開
2017年3月1日	ECB理事会プレビュー～進むも地獄、戻るも地獄～
2017年2月27日	ECB、公的部門購入プログラム（PSPP）の現状と展望
2017年2月24日	週末版(メインシナリオのリスク点検～問題の所在は全く変わらず～)
2017年2月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2017年1月分）
2017年2月21日	ユーロ圏投資ファンド統計～ユーロ安の底流にあるもの～
2017年2月20日	ECB理事会議事要旨～窮屈になる追加緩和の環境～
2017年2月17日	週末版（米12月対内・対外証券投資（TICレポート）～対米資本フローに表れる不信感～）
2017年2月15日	イエレンFRB議長議会証言を受けて～正常化を止めるのはドル高か～
2017年2月14日	ドル高を信用できない金融市場の現状～需給への影響も～
2017年2月13日	日米首脳会談を終えて～円高警戒は解けず～
2017年2月10日	週末版（再燃する対ドイツ格差問題～新しい欧州経済・金融のテーマ～）
2017年2月9日	円相場の基礎的需給環境～2016年国際収支を受けて～
2017年2月3日	週末版（トランプ大統領が日本を付け狙う理由～「返り血」が少ない喧嘩相手？～）
2017年2月1日	日銀金融政策決定会合～トランプとFTPLの狭間で～
2017年1月30日	メインシナリオのリスク点検～不幸を生むドル高は続かず～
2017年1月27日	週末版
2017年1月26日	日銀による国債買い入れオペ見送り～為替からの読み方～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2016年12月分）
2017年1月25日	貿易収支の調整経路～「理不尽な円高」は不可避か～
2017年1月23日	ECB理事会を終えて～窮屈になる緩和環境～
2017年1月20日	週末版
2017年1月19日	改善が顕著なユーロ圏の与信・物価状況～ECBは慢心せず～
2017年1月18日	メイ英首相演説を受けて～反EUの「悪い見本」になるのか？～
2017年1月17日	目の敵にされる4つの通貨～対米黒字を稼ぐ「悪」の枢軸？～
2017年1月16日	ECB理事会プレビュー～「可能な限り、現状維持」が本音～
2017年1月13日	週末版(円相場における実需と投機の現状について～対外証券投資にまつわる懸念事項も～)
2017年1月12日	トランプ次期大統領会見について～トランプはトランプのまま～
2017年1月11日	「国際金融のトリレンマ」を通じた日中比較
2017年1月6日	週末版（外貨準備構成通貨の現状(2016年9月末時点)～ユーロの独り負けだった過去3年～）
2017年1月5日	FOMC議事要旨（12月13～14日開催分）を受けて
2017年1月4日	2017年のドル相場について～空中戦はどこまで続くか～
2016年12月27日	2017年、為替相場の勘所～実効ベースで複眼的に～
2016年12月26日	2017年のブラックスワンはどこに現れるのか？
2016年12月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2016年11月分）
	週末版
2016年12月19日	メインシナリオのリスク点検～「守りの姿勢」継続を～
2016年12月16日	週末版(メキシコペソはドル高相場を阻むか～避けて通れない政治的通貨～)
2016年12月15日	FOMC（12月13～14日開催分）を終えて
2016年12月13日	米金利高・ドル高の影響～「熱する前に冷やす」怖さ～
2016年12月12日	円相場における実需と投機の現状について
2016年12月9日	週末版（ECB理事会を終えて～2016年は「QEの終わり」を告げる年に～）
2016年12月7日	日米金利差から見たドル/円相場の水準感などについて
2016年12月6日	イタリア国民投票レビューとECB理事会プレビュー
2016年12月5日	トランプノミクスのリスクとなる米国の完全雇用状態
2016年12月2日	週末版（トランプノミクスを左右する米製造業マインド～通貨政策のバロメーターに～）
2016年12月1日	イタリア国民投票プレビュー
2016年11月28日	ユーロ相場の展望～来年底打ちも政治リスクは重荷～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2016年10月分）
2016年11月25日	週末版（メインシナリオに対するリスクの整理～円安リスク。「現実味」は帯びたが「現実化」はまだ先～）
2016年11月24日	日米金融政策比較と為替への含意～格差は拡大の一途だが～
2016年11月22日	真空地帯に入るドル/円相場～暫定見通し～
2016年11月21日	チキンレースと化すドル高相場～レーガノミクスとの比較～
2016年11月18日	週末版
2016年11月17日	イタリア国民投票に関するQ&A
2016年11月16日	円の基礎的需給環境の現状と展望
2016年11月15日	トランプノミクスを巡る2つのシナリオ
2016年11月14日	トランプノミクス相場に関するQ&A
2016年11月11日	週末版（トランプ次期大統領のポリシーミックス～随所に見られる矛盾をどう捉えるか～）
2016年11月10日	トランプ大統領誕生と為替相場見通しへの影響
2016年11月8日	実質ドル/円相場の現状～「超異常」から「異常」そして「正常」へ～
2016年11月7日	米10月雇用統計を受けて～「最後の灯火」の可能性も念頭に～
2016年11月4日	週末版（FOMCを終えて～焦点は3回目、4回目の利上げに～）
2016年11月2日	日銀金融政策決定会合を終えて～無味無臭の政策運営へ～
2016年10月28日	週末版
2016年10月27日	ドル高相場の調整が進まない背景～実効相場の観点から～
2016年10月26日	円高シナリオにまつわるリスクの整理
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2016年9月分）
2016年10月25日	日銀金融政策決定会合プレビュー～もう表舞台に立たくない～
2016年10月24日	ECB理事会を終えて～ECB版総括的検証の行方～
2016年10月21日	週末版
2016年10月20日	最近の対内・対外証券投資動向と為替について
2016年10月19日	英ポンド急落の読み方～通貨安戦争の勝ち組～②
2016年10月18日	英ポンド急落の読み方～通貨安戦争の勝ち組～
2016年10月17日	米為替政策報告書を受けて～ドル高忌避変わらず～
2016年10月14日	週末版
2016年10月7日	週末版
2016年10月5日	ECBのテーパリング観測～予想すべきは真逆の方向～
2016年10月4日	世界にとってのテールリスクとなる「欧州の潔癖主義」
2016年10月3日	外貨準備構成通貨の現状（2016年6月末時点）
2016年9月30日	週末版
2016年9月27日	ユーロ圏の与信、物価、為替に関する状況整理
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2016年8月分）
2016年9月26日	ハードルが上がった日銀の追加緩和
2016年9月23日	週末版（日米金融政策決定会合を終えて～確度が強まる円高見通し～）
2016年9月20日	米大統領選挙と為替相場に対する考え方について
2016年9月16日	週末版(「日銀相場」の活かし方～断ち切られた株と為替のリンク～)
2016年9月15日	G4通貨の調整状況～懸念されるドル安不足～
2016年9月14日	日銀会合プレビュー～「量との決別。金利への転進」～
2016年9月13日	ブレイナード講演を終えて～ハト派の矜持～
2016年9月12日	米利上げに怯える株式市場～「ドル高の罠」再び～